

「コズミックディスク」をお迎えしていただきありがとうございます。ドラムにマーキュリ（レボバー、アンサマ）をゲストに3曲、ようちゃんがメンバーにパフォーマンスで4曲。作業をすまめつつ、ちょっとどうしようかな、とたびたび止まっている間に世界はすっかり変わってしまった。ちょっと時間のゆかっしゃいました。でもなかなか味わい深い仕上がりだったんじゃないかなあと思います。前半はクールにキュートに、後半はちょっとマッスルに。荒々しいところや歌の掛けも残していたりと美味しい雑味もあり。

ライナーノーツでいいアイテムだと思う。

今回色々な書き方に書いてみました。

そんなに解説にはなってないけどそこがいいと思います。
ぜひあなたもお好きな解釈でお楽しみください！

AYARAGIビーチ

スピッツの「ベビーフェイス」という曲の歌い出しが気持ちいい。なんとなくさみい歌詞だけど、カラッとしたテンションでバイバイと歌ってる気がしてとても好きな曲。AYARAGIビーチのあたまの「そうきっとさよならベビーフェイス。もう涙はふいてあげられない」はちがうユニアンスだけどここから頂いてます。ちょっと壁り空のくすぐる海岸のお別れ。夏の単語が入った曲をつくりがちやけど、現実の夏ってやつは本当に苦手やつらいい。多分これからもずっと近づけないし存在に憧れ続けるでしょう。ちなみにAYARAGIは山口にある鍾羅木海水浴場から。(み)

メロディーに波乗りする歌詞がすごく気持ちいい。

演奏するのも楽しいです。

鍾羅木海岸(行ったことはない)の写真をスタジオで見ながら作った。湿度が高い雰囲気のミックスもいいかんじです。(ま)

Bモンブラン

私はアイスが好きで(甘い物全般好き)一時期アイスの商品開発する人になりました。今までで多分1番食べてきた思い出の味、アイスの「グラムモンブラン」。幻のフリーベーカーくつした通信のアイスコーナーに登場させたブラックモンブラン。今や全国的に人気になって関西でも見かけることが増えました。"モンブラン"は果のケーキではなくMt.モンブランのブラックモンブラン。実はこの曲、グラムモンブランへの愛をうたっているのです。まあちょっと後付けなのだけれど。数ある愛とアイスの中では、はたしてそのひとつを選んでいいのかなっていうふたつの意味で食いしんぼうな葛藤の歌ですね。最初は淡々として無機質なテンション、さらには甘さをチラつかせて惑わせる相手にグーパンくらわせるぞ、っていうちょっとと亂暴な気持でうたいました。ちなみにグラムモンブラン製造元の竹下製菓のアイスは美味しいでユニークな商品ばかりなのでホームページチェック！通販もやってるよ。(み)

冷静に真っ直ぐで強い言葉に共感したり気持ちよくなったりして。たまにあのアイスのザザクランチが散らばるイメージ。(ま)

再見

行ったことのない、憧れの場所は山ほど。国内だけでもグーグルマップの旗の数が大変なことになっている。リアルではないけど曲の中では自分の解釈でどこにでも行ってやるといつも思ってた。けど、この曲は形までできただけしばらく完成しなかったな。そんな中タイミングも合って初めて憧れの地に行けることに。馴染みのない味やにおい。もうわくわくと興奮の連続なんだけど、その一方で顔も似てるしのんびりしている優かしい雰囲気もすてきやつた。これは余命になってしまふ。旅行中に朝ひとりで、宿の近くのフルーツジュース屋さんに行って勇気を出して注文してみた。出来たてジュースを渡されて飲めてドレッシチャーハテナ。ちょっとと飲んだらまたカップをよこせって言われて、ジューサーの残りを全部入れてくれた！おいしいうれしい(み)

なかなか完成しなかった曲。コロナ直前に台湾旅行に行って、帰ってきたらすぐできた。旅行や遠征前に下調べの鬼と化する(ほぼグルメ情報)おもちゃんが、行ったことのない国に憧れて作りはじめめて、曲が膨らんでいくのが面白かった。遠足前の子どもみたいな気持ちと、台湾の独特的香辛料のにおいがする(ような気がする)曲。(ま)

みんなが台湾に行く半年前、先に台湾に行っていた。淡水という町は夕焼けが有名だけど、駅近くでやっている市場が面白かった。多分地元の人を利用している。日本では見ない果物や海産物が売っている。大学？があるせいかお洒落なカフェとかもあるので、機会があれば是非。(よ)

Rsidestory

くつしたユニット時代、ふたりの曲がつくりたいな~と思いつながら書き下ろした1曲。ふたりくつしたバージョンもとても良いのでやる時は見にきてほしいな。

歌手にひとり怒ってる人が多い。

さみしいとかうらやましいとかかわってほしいとか。

私はとりえず「孤独の逆ギレ」と呼んでいてそれを楽しく歌やバンドでアウトプットしたいなあと思なが、でも上手く進められずにいつも頭抱えてます。漫画でよく思いつかなくてゴロゴロと転げまわってる描写あるけどわかるね、あんな感じやね。

心の雪よ溶けよ~とあつたかい日なたを目指したり、肩を並べて川岸に座って練習したり、その辺を自転車で移動したり、なんてことない日常のうたです。

演奏はザ・バーズの「I'll Feel A Whole Lot Better」みたいな乾いた空気の中の煙めきにしようと思って、黒張った。今聞くと本当にちょっとだけなのだけぐつしにには珍しくリードギターが多い。(み)

高野川から鶴川に流れるキラキラした水面がまぶしくて、ため息をひとつ。レコーディングでは12弦ギターも重ねて、まーくんのドラムもとってもいいです。(ま)

ひなたの毛なみ

昔テレビ番組「美的巨人たち」で見た植田正治特集で演出写真というのを知った。人物をモチーフとしてフレームの中に組み立て、いわゆる日常の家族の写真ではないんだけど(植田家ではそれが日常か)かっこいい写真だしこういう形で残るのはいいなあと。その後鳥取にある美術館で体験できただけど、そこで見かけた

「私のまなざし(だったと思う)」という言葉が気に入ってどっかで使つてやるぞとメモしてた。

ここまで長いままある関係はない。

けどずっととておいた「まなざし」をこの歌の中で使えてよかったです。ひなたの毛なみは窓際で暖をとつてフカフカに、つやつやに輝く大吉。全ての毛なみたちに捧げる。(み)

全体的にフォーキーな雰囲気と渋めのギターソロにコラスを合わせるかんじ、あとサビのベースライムも人気に入ってる。なくなってしまったリンギーデインクスタジオ京都で冬に作った曲。レトロなセンターを背寄でていた気がする。音はなんとなくザ・ヘアを少し意識してた。(ま)

大吉ってむちゅくちゅい名前だと思っている。曲のモデルだけまだ会えてないので、想像で演奏している。(よ)

たのしくない

ほぼノンフィクションにちょっととメルヘンを加えて。夏はフルーツ水の塊、冬は肉まんを製造する工場(工場という規模ではないかな？工房？)で働いていた時の曲。職場がめちゃくちゃすぎて怒りでぐでぐでにできた。曲を作ってる時結構違うのがタイトで、これも案の定迷つた。「たのしくない」って強すぎるとかなると思ったけどくり返すうちに段々と曲と合ってきたね。よかった。ライブでタイトを言つてバチンと演奏を始めるやつに憧れるが、この曲でやると誤解を呼びそう。いつもやるたびに、全員が苦しい顔をしていておもしろい。そして毎度、まーさんのストイックなベースとようちゃんの爆笑するドラムに、自分ももっとやってやるぜという気持ちにさせられる。(み)

くつしたに入つてから出来た最初の曲と思う。自分の解が良いところも悪いところも出ていて、正直演奏しているとき一番「たのしくない」と思っている曲でもある。音はでかくでしんどいのに、うまく効いてる感じがない。なんかズレてる気もするし。演奏しながらストレスが溜まつていくんだけど、「カットザブルー」のおかげで、ずっとやり続けることが出来ている。(よ)

コズミックスペース

キラキラの星雲。高知の素晴らしいバンド、ケンカキックに捧げる。(み)

ライブでは50mダッシュ！
音源は宇宙マシマシです。(ま)

大吉

名古屋から大阪に来た。ちょっと大きめの猫ちゃん。ながおかと暮らしている。ブラッシングが好き。



(み)みお
(ま)まち
(よ)ようや